
なさないけもの

高橋うがい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なさないけもの

【Nコード】

N2067E

【作者名】

高橋うがい

【あらすじ】

「なさないけもの」と呼ばれる狼の話。

私は狼。^{オオカミ}名前はまだない。

だが通称はある。鬱蒼とした森の住民たちは揃いも揃って私の事をこう呼ぶ。「なさけないけもの」

確かに私は情けない。

たとえば、銃を持つ人間が森に狩りをしにやって来れば我先に逃げ出すし、自分よりも大きな動物とは決して闘いはしない。

これは情けないのだろうか？ 疑問に思うときもあつたが森の住人たちが声高らかに「なさけない！」と叫ぶため、いつしか納得していた。

——ぐうー。

腹の虫が鳴った。久しく頭を使つたからだだろうか、普段よりも大きく腹の虫は自己主張をしてきた。

「おい、お前」目の前を歩く自分のことを世界で一番美しいと勘違いしていきそうな兎に話しかける。

「なによ……」兎は声を強張らせた。

呼び止めたもののどうしたものか、と頭を捻っているとその隙を見計らい、兎はご自慢の脚力を駆使し逃げ出した。「待て！」

時折、邪魔に思える木々の生い茂る森を兎が駆けていく。それを狼が追いかける。

兎と狼。どちらが勝者になったかは、わざわざ説明する意味はない。

「捕まえたぜ……」

——ぐうー。

腹の虫が鳴る。はやく腹を満たさなくては。

兎の上に覆いかぶさるような体勢で狼は「いただきます」と律儀な言葉を発した。

「やめて！」これが兎の断末魔となった。

この断末魔が小動物、つまるところ狼の餌となる森の住人たちの耳に届いた。

「またか…」

「狼の野郎…」

「あいつは本当に…」

「自分の事以外はどうでも良いのか…？」

森の住民たちは心痛な思いで、狼の事をこう呼ぶ。「情けない獣^{けもの}」

次に食べられるのは自分かも知れないと恐怖を抱き、自然の摂理だから仕方のない事だと諦めつつも、いつしか狼が情けを持つ者になる日が来る事を小動物らしく弱々しく願っていた。

森にまた、情けのない断末魔が響いた。

—終—

（後書き）

最後まで読んで頂き感謝感謝です。

童話のようなものを書こうと思い立ったのですが、このような形になっ
てしまい残念です。

では、また。

他の小説も宜しければ是非。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2067e/>

なさけないけもの

2010年12月30日14時11分発行